

2009年 3月 9日

島根大学長 殿

研究者名 (代表者名)

王 国慶

印

2008年度研究奨励助成 研究報告書

研究分野	(該当する分野を○で囲んでください) ①. 寧夏南部山区と日本の中山間地域の持続的可能な発展に関する研究 ②. 生態系・環境の保護と再生に関する調査研究 ③. 農業経済と社会発展の比較に関する調査研究
研究者の連絡先	
実施期間	2008年4月 ~ 2009年3月

研究の実績・成果の概要

寧夏南部山区は長年の扶貧開発を経て、農民の収入が年々増えつつある。しかし、全自治区、全国の平均レベルとの格差もだんだん大きくなってきている。日本も中山間地域の発展の中で既に不況と衰退現象があったが、例えば、大都会の急速な発展と拡張は多くの農村人口が都市にへ流れたため、中山間地域では過疎現象が現れた問題、第一産業の発展が遅れて、土地は荒れ果てるなどの問題があれば、循環農業、農産品加工企業、農村チェーン・ストア、農民健康センターなど不況から景気へ発展させる一連の経験もある。

寧夏南部山区はこの十年間、国家の西部地域に対する「退耕還林還草政策」を実施して以来、地元の事情に適した措置を取って草畜産業を発展させ、森林の被覆率を高めた。農地水利基本建設を進め、貯水施設と小流域治理を強化したため、穀物の生産性を高めた。そして、施設農業と特色農業を積極的に展開したお陰で、人口が多く耕地が少ない矛盾を緩和させた。退耕還林と移民政策を結びつけ、地域の生態を良いほうに変化させてきた。また、農民工を大量に都会と発達している地域に輸出させ、余剰労働力の問題を解決した。教育事業の推進に力を入れて農村人口の素質を大いに高めた。これらの措置の実施によって、農民の視野が広げられ、観念を展開させて、収入を増やしたのである。

当面、該地域にはまだ、農村経済基盤が弱く、各社会事業の発展が立ち遅れている問題が呈する。特に顕著な問題は世界金融危機の蔓延が経済実体への襲撃によって、既に安定している移転した農村労働力が故郷へ帰るようになって、南部山区農民の収入ルートが阻害されているので、農村発展は新しい難題にぶつかったということである。したがって、今後の研究方向は金融危機が農村労働力の移転と南部山区の労務経済にもたらした影響に向き、日本中山間地息の発展経験と人口過疎化の教訓を参考にし、寧夏南部山区の発展道路を探索して、該地域の人と自然の調和的発展に示唆を提供する。

区 分	金額 (単位: 円)	備 考
1. 物品費	---	---
2. 消耗品費	53,904 円	(3,346.00 円)
3. 謝金等	89,894 円	(5,580.00 円)
4. 旅費・滞在費	37,211 円	(2,309.80 円)
5. その他	19,525 円	(1,212.00 円)
計	200,534 円	(12,447.80 円)

※交換レートは 16.11 円